第十七回 新城薪能

とき　平成十八年八月十九日（土）
　　午後五時三十分始
ところ　新城文化会館大ホール
　　入場無料

5時30分始

能組

仕舞

鞍馬天狗　定盛展也
嵐山　加藤晃
鞍馬天狗　今泉尚美
嵐山　村田昂平

連吟

松風

ツレ　金田夏代子
シテ　永田聡子

鈴木富代
今岡アイ子
加藤佳子
竹下京子
小林寿枝
伊藤秀子
太田温子

6時00分頃

火入式

新城市議会議長　兵藤祐治
新城市教育長　和田守功

狂言

清水

太郎冠者　天野雅夫
後見　大原正巳
主　山本勝

連調

蝉丸

粟谷明生
伊藤秀子
小林寿枝
今岡アイ子
永田聡子
星野弘子

ごあいさつ

新城市長　穂積亮次

舞囃子

羽衣

太田康弘
大鼓　鳥居宗克
小鼓　森田收
笛　今泉英三

6時45分頃

狂言

梟山伏

山伏　酒井宏

後見　水谷至男

兄　権田重紘

弟　小沢貞博

仕舞

湯谷　太田温子

蝉丸　鈴木富代

船弁慶　伊藤秀子

八島　加藤佳子

羽衣　小林寿枝

井筒（キリ）　竹下京子

狂言

樋の酒

太郎冠者　佐野泰三

次郎冠者　山口俊一

後見　天野雅夫

主　大原正巳

7時55分頃

能

小鍛冶（シテ）

中嶋康夫

白頭（ワキ）　牧野修

（ワキツレ）　太田研司

間　加藤賢一

後見　粟谷明生

太田康弘

大鼓　清水利高

小鼓　森田收

太鼓　鈴木崇史

笛　酒井淑規

伊藤杉人

長田共永

地謡　加藤貢

竹内省吾

杉浦史佳

竹下直秀

今泉英三

中村邦生

粟谷能夫

粟谷浩之

竹内三郎

附祝言

（終了予定午後九時頃）

主催　新城市文化協会

後援　新城市

新城市教育委員会

新城市観光協会

あらすじ

狂言　清水（しみず）

主人から、茶の湯で使う水を野中の清水へ汲みに行くように命ぜられた太郎冠者は、行きたくないので、清水に鬼が出たと水桶を捨てて来たが、主人が取りに行くと言うので先回りして、鬼に化けておどすが結果は……。

狂言　梟山伏（ふくろうやまぶし）

ある男が、山から帰ってきてから具合の悪い弟の太郎を治してくれる様、山伏に祈祷を頼みます。山伏が一心に祈り始めると、太郎は急に「ポーン」と奇声を発します。兄の話によると、太郎は山に入り梟の巣にいたずらをしたと言う事なので、これは「梟」が、とり憑（つ）いたのだと察した山伏は、「梟」の嫌う鳥の印を結ぶ。しかし、一心不乱の祈りもむなしく太郎は鳴き続け、そればかりか今度は兄まで、梟が憑いて鳴きだしてしまいその結果は……。

狂言，樋（ひ）の酒（さけ）

主人の留守に太郎冠者は米蔵を、次郎冠者は酒蔵を預けられた。酒好きの太郎冠者は、次郎冠者に頼んで酒蔵から樋を架けて酒を飲ませてもらい、二人は別々の倉で酒盛りをしていたが、そのうちに一緒になって謡い舞いしている所に、主人が帰ってきて……。

能　小鍛冶（こかじ）

勅使橘道成（タチバナノミチナリ）の述べるところによりますと、一条の帝は、ある夜不思議な夢をご覧になり、神のお告げにしたがって当時名工として有名な三条の小鍛冶宗近（ムネチカ）に御剣（ミツルギ）を打たせることにしたのでした。で、道成は帝の使いとして宗近を訪ね、宣旨（センジ）を伝えるのですが、宗近にはその相槌（アイヅチ）を取るにふさわしい者がいません。途方に暮れる宗近は、神の力にすがるよりほかないと、氏神の稲荷明神へ祈願に出掛けるのです。

すると、宗近を待っていたかのように現れる一人の童子。声をかけてきますが、不思議にも一条の帝の宣旨のことを知っているのでした。そして唐大和（カラヤマト）のかずかずの名剣の威徳や故事を述べ、かの日本武尊（ヤマトタケルノミコト）の草薙の剣（ツルギ）について語ります。

語り終えて童子は、宗近の打つ剣は草薙の剣に劣らぬといい、剣打つ檀を造って待て、力を貸し与えよう、と告げて稲荷山に姿を消すのでした。ー中入りー

仕事場に準備万端整え、衣服を改めて待つ宗近。幣（ヘイ）を手に祝詞（ノリト）を唱えて祈っておりますと、稲荷明神の使者の狐が長柄（ナガエ）の槌を携えて走り現れ、狐は宗近を促し、剣を打ち始めます。力強く響き渡る槌音。

剣は打ち上がりました。狐は、表に小鍛冶宗近、裏に小狐と銘を刻んだ剣をかざして、四海安穏五穀成就と祝いの言葉を述べ、待つ勅使に捧げます。

と、瑞雲たなびき、狐はそれに跳び移って、稲荷山へと帰って行くのでした。

薪　能（たきぎのう）

『薪能』の名称の能公演がかなりありますが、これにはたいへんな誤解がありまして、つまり『薪』の火の明かりを照明に使っての演能という理解と納得が支配的なのです。

遠い昔、薪の猿楽といって、春を迎える頃に神社やお寺で薪を奉納する宗教行事があり、このときに猿楽を催したものでした。これが今の『薪能』の初めなのです。名高い奈良興福寺の薪能は昔ながらのものだそうですが、始まるのはまだ明るいうち。暗くなったら（暗くなったから）篝（カガリ）をたくのです。

新城の『薪能』は、新城文化会館が完成したのを契機に、平成二年第一回新城薪能が新城市文化協会主催で催され大好評を得ました。現在全国で二〇〇ヶ所程『薪能』が催されていますが、職分の先生方の演能が多く、『新城薪能』は素人による演能であることが特徴であって今後永い伝統を持つ祭礼能と共に、薪能を新しい伝統として守り発展させてまいりたいと存じております。今後とも皆さま方のご支援をお願いいたします。

謡・仕舞・囃子（笛、小鼓、大鼓、太鼓）・狂言のお稽古をなさりたい方は、お気軽に文化協会事務局へお申し込みください。
それぞれの向きにお世話をいたします。